

石狩地区 新規就農者紹介



2023年に2度訪問し、今回3度目の訪問です。現在の状況をお聞きしました。※就農の経緯等については以前の記事に掲載しています。

【農場概要と栽培品目について】

現在は、約3haのほ場にてビニールハウス7棟でミニトマト、露地でかぼちゃやとうもろこしを栽培しています。作付面積については、ミニトマト30a、かぼちゃ30a、スイートコーン30a、子実用とうもろこし220aとなっています。

ミニトマトの品種はプレミアムルビーで、農協や地元の直売所などに出荷しています。

かぼちゃはハロウィン用をメインにプッチーニなど数品種を、とうもろこしは子実用とうもろこしを主に一部スイートコーンも栽培しています。いずれも有機農協などに出荷しています。

以前から有機JAS認定を目指しており、今年で2年間の転換期間が終わるので、令和8年には正式に認証される見込みです。

萬福農研（千歳市）

2025年10月取材

山口 善之 さん

就農年：2022年4月

経営形態：施設園芸、畑作

作物：ミニトマト、かぼちゃ、とうもろこし

【就農4年目を迎えて感じたこと】

ほ場は砂質土壌で、とても水はけがよく病害虫の発生は少ないのですが、雨が少ないと乾燥しやすく肥持ちがよくない土質なので、その土質にあった作物の選定が難しいと感じています。

ハウス栽培のミニトマトは、比較的安定して生産できるようになりましたが、露地作物については様々な作物を栽培しながら、何がこの土地に適しているのか今も試行錯誤を繰り返しています。適切な肥料や水やりの管理など、栽培管理にも細心の注意をはらって栽培しています。

シカやアライグマによる獣害があります。市街地に近いため猟銃による対応が難しいなど、人の生活圏に近い立地ならではの悩みがあります。今年は自身で設置した箱罠でアライグマを2頭捕獲しました。

就農4年目を迎え、ある程度安定した収入が得られるようになりましたが、昨年で農業次世代人材投資資金のうち経営開始資金の受給期間（3年）が終わり、今年から公庫資金（青年等就農資金）や農協から融資を受けたハウスリース事業の返済が始まることから、これからが正念場と感じています。



【主力作物のミニトマト】



【75mビニールハウス】



【収穫間近の子実用とうもろこし】

【農福連携について】

市街地に近い立地を活かし、農福連携に積極的に取り組んでいます。ミニトマトのシーズン中は毎週10名程度を受け入れ、主に葉切り作業をお願いしています。今後、更に販路が拡大すれば、パッキング等の作業も任せていきたいと考えています。

【工夫していること】

ビニールハウスは可能な限り南北方向に設置し、日照効率を最大化しています。ハウスにはかん水設備を導入しており、マルチ下の点滴かんがいチューブと通路のかん水チューブを生育に応じて切り替えて、常に適切な水管理ができるようにしています。

またハウス内の保水力向上のため、作物残渣で作られた生分解性吸水ポリマーを毎年投入しており、効果を実感しています。

農福連携で来られる方が作業時に迷わないよう、去年まで2本仕立てで栽培していたトマトを1本仕立てにし、葉切り作業がよりシンプルにこなせるよう工夫しています。

露地についてもプラウは入れず、表土に堆肥や植物体を集中的に投入して土壌改良を図っています。子実用とうもろこしは、収穫後の残渣が緑肥として期待できることに加え、地中深くまで根を張るため、土質改善にも有効ではないかと考えています。

【オフタイムの過ごし方】

シーズン中はほぼ毎日ほ場におり、なかなか休みがとれないのが実情です。

冬の期間はほ場での作業がなくなるので、空いた時間で除雪のアルバイトをしています。また、事務作業や来年度への営農準備などにじっくりと取り組んでいます。

ほ場の除雪について、冬はビニールハウスの被覆を外すので、除雪管理も倉庫の周りなど最低限で済むようにしています。

【今後の展望】

主力作物であるミニトマトの栽培用ビニールハウスを就農時から少しずつ増やしてきましたが、今年も3棟増やす計画を立てており、増産していく予定です。

規模拡大に伴ってパート従業員も増員したいと考えています。また、農福連携も継続したいと考えています。

借入資金の返済がひと段落したら、ハウスの環境制御装置や自動かん水制御装置などのIoT設備や防除用ドローンなどのスマート農機も導入していきたいです。

【就農を目指している方へアドバイス】

農業は体が資本です。就農するなら、なるべく早い方が良いと思います。私は20代後半で就農しましたが、40歳を超えてからの就農だと、体力的にも大変ではないかと思います。

資金はあった方がよいですが、無くても「経営開始資金」などの事業を活用することで何とかかなと思います。私は、研修期間中は昼に研修を受け、夜にはアルバイトをして初期資金を貯めました。貯めた資金で中古でトラクターや作業機など購入しました。



【コンパニオンプランツ*としてオクラやバジル、マリーゴールドなども栽培】

*一緒に栽培することで互いの成長により影響を与えあう植物の組み合わせのこと



【訪問中にシカが現れ、作物残渣のかぼちゃを食べています】



【アライグマを捕獲する箱罠】

石狩地区 新規就農者紹介



萬福農研(千歳市)

2023年7月取材

山口 善之さん 山口 彩里さん

就農年:2022年4月

作物:ミニトマト、かぼちゃ、すいか

「萬福農研」Instagramはこちら→



【夏の農作業ポイント】

雨の日が少ない時の畑の水まき

降水量が少なかったこともあり、2～3日に1回かぼちゃ畑に水まきしています。500リットルの水をトラクターに積み、1回の水まきに6時間かかるので、作業完了は夜遅くなることもあります。

【作物の生育状況について】

●ミニトマト

去年は主枝1本で栽培していましたが、今年は脇芽をいかして枝を2本にし、収穫量を増やしています。

また、病気対策として湿度管理や実より下についている葉・脇芽取りをこまめに行っています。悪天候も少なく、順調に生育しています。

●すいか

すいかの生育促進や生産の安定を図るため、一緒に夕顔を植え、すいかの茎と夕顔の茎を癒着させる「接ぎ木」を行っています。

【ほ場風景】



(ハウス内のミニトマト1) (ハウス内のミニトマト2) (「接ぎ木」したすいか1)



(「接ぎ木」したすいか2)

(かぼちゃ1)

(かぼちゃ2)

石狩地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

大学卒業後、北海道の農産物や海産物を本州に販売する卸売会社に就職しました。道内の農家や農協を回る中で、北海道の農産物に魅力を感じ、「自ら農産物を作りたい」と思い、就農を決めました。

新規就農者のバックアップ体制が充実している道央農業振興公社で2年間基礎的・実践的な技術を学び千歳市で就農しました。

【就農して感じたこと】

就農初年度は、作付けした作物の一部がうまく成長せず苦労しましたが、農業はすべてにおいて自己責任なのでやりがいがあり、楽しいと感じています。

萬福農研(千歳市)

2023年5月取材

山口 善之さん 山口 彩里さん

就農年:2022年4月

作物:ミニトマト、かぼちゃ、すいか

「萬福農研」Instagram はこちら→



【今後の目標】

通年雇用が生まれる農業

『農福連携』に取り組みたい

今後はハウスを増設して雇用を生み出すほか、障がい者等が活躍できる環境を生み出し、お世話になっている地域の方々に恩返ししたいです。

【ほ場風景】



(ハウス内のミニトマト1)



(ハウス内のミニトマト2)



(萬福農研のほ場)

【活用した事業】

- ・ 新規就農者育成総合対策のうち『経営発展支援事業』
『経営開始資金』
- ・ 青年等就農資金